

内装材の吸音率	周波数		
	125Hz	500Hz	2000Hz
ヒノキフローリング	0.10	0.10	0.06
コンクリート壁	0.01	0.02	0.02
漆喰壁	0.04	0.06	0.04
畳	0.31	0.58	0.43

これまでの連載で、木の優れた点を色々と紹介してきました。知れば知るほど、木と言う材質が人にやさしく、いかに住まう環境に適しているかということが分かってきます。さて、今回は「耳にやさしい木の秘密」がテーマです。

美術館や病院などで、自分の足音が思わぬほど響いて驚いたことはありませんか？大理石やコンクリートは、音をほとんど吸収せずに、はね返すため、残音が残る、耳障りに感じられることがあります。しかし、木材には、上の表のように、低音・中音・高音をバランスよく吸収する働きがあるため、室内に木材を使用した場合、不快な雑音が吸収され、音がまろやかになります。これは木材が多孔質の材料であるからこそ得られる特性。目には見えないミクロの孔がそんな効果を生み出してくれています。優れた音響効果を要する劇場やコンサートホールに木材が使用される理由は、こんなところにもあるのです。下の写真は廿日市市のさくらびあ大ホールですが、このホールは音楽コンサートを主目的とし、音響に特に配慮したホールで、広島でも音響が優れていることで有名なホールです。写真のように壁面は木を用いた落ち着いた内装となっています。コンサートなどで行った際には「音響の良いホールなんだ」と思い出しただけであれば幸いです。(啓)



廿日市市さくらびあ大ホール

近況報告

スタッフ一同皆元気に新年を迎えております。仕事始めの5日の朝礼は男性社員皆が集まって朝礼を行い、一年の抱負を話してもらいました。順不同で

中谷君：早く仕事を覚えて、一人でできる仕事の幅を広げたい！

宮本君：恒例休みになると熱を出していますが、この休みも大晦日から熱を出してしまいました。体調管理をしっかりと、仕事はどしりと構えて行きたい。

河野(大)君：下の子も年長になるので、子供の行事にしっかりと参加したい。JC(仕事以外の活動)が忙しくなるのでバランスと計画性を持つ。

太田君：年末から足が痛く、年齢を実感。保育所に行っている子供にしっかりと関わりたい。

西村君：43歳になるので体調崩さぬよう気を付け、年度末に向けてしっかりと成果を出したい。

竹内常務：いよいよ60歳、もう少し長生きしたいので体を気を付けたい。

里さん：70歳を迎えるが、益々好奇心が湧いてくる。何でも興味を持って取り組みたい！

と、色んな抱負が出てきましたが、特記すべきは、中堅メンバーが年を感じるようになった事ですかね！(啓)

「住いの困った」は ゲインンハウス 大竹店・廿日市店共に
フリーダイヤル0120-505-375 URL:<http://www.geinan-house.co.jp/>
最後までお読みいただき有難うございました、次回は4月の予定です。(啓)
*尚、この「住まいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。

いつもお世話になっている皆様へ。



住まいる通信

H30.2



皆様、新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお祈りします。

皆さんの今年のお正月はいかがだったでしょうか？私のお正月は近年恒例、大晦日に姉のお寺に除夜の鐘を突きに行き、そして元旦は朝の9時に家族全員で仏壇にお参りをし、お節料理でお屠蘇と雑煮をいただき、一人一人今年の抱負を話しました。正月休みは、次男家族も帰省していたので何とも賑やかなお正月となり、孫が来てうれしい、帰ってうれしいを実感した正月でもありました。



河野

上の写真は、自宅裏にある祠(家内の父の手作り)に三人の孫が新年のお参りをしているところです。この祠はかつて農家だった先祖がこの土地を祀ったものです。孫たちにこの土地はかつて先祖が苦勞して手に入れ、米や野菜を作って暮らしてきたことを話をして(多分わからなかったと思いますが・・・)、皆でお参りをしました。(因みに奥から小学校4年・2年・幼稚園年中、勿論皆男の子です！)



さて、大晦日の姉の寺では本堂に来年の抱負を書く記帳があり、私の頭に浮かんだ文字が「挑」。なかなか勇ましい文字ではありますが、この文字が浮かんだのは、一昨年還暦と言う大きな節目を過ぎましたが、未だに還暦を迎えたという実感が全く湧いて来ません、どうやらこのままだとするずると行ってしまいそうなので、元気な間に趣味も仕事もしっかりと「挑む」気持ちを持って取り組みたいと思い、この「挑」を今年の抱負とした次第です。

社内では、今年1月に本社サービス担当の里さんがいよいよ70歳を迎え、竹内常務も10月に60歳を迎えます。まだまだ皆元気に頑張っていますが、確実に次代への引き継ぎが迫っていることをひしひしと感ずる平成30年となるようです。

最後になりますが、本年も変わらずのご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。(啓)

建物探訪 「サザエさんの家」とドラえもん「のび太の家」



サザエさん宅正面



サザエさんの家の間取



2階平面図



1階平面図

のび太の家の間取り

今回は「私が感動した建築美と構造美」というタイトルでスカイツリーなどご紹介しましたが、今回は皆さんご存知、昭和44年から放送が続いているアニメ「サザエさんの家」と昭和48年から始まったドラえもん「のび太の家」をご紹介します。私も子供のころから日曜日の6時半からといえば「サザエさん」を毎週見ていました。スポンサーが東芝でしたので、古い日本家屋に最新型のテレビがあったことが子供心に印象的だったことを思い出します。

まずは「サザエさんの家」。木造平屋建て約34坪の住宅です。左の間取り図のようにキッチン以外の居室は全て畳の部屋となっていて、個室と言えるのは玄関近くの子供部屋とサザエさん家族の部屋だけと言うオープンな住まいで、昭和初期から20年代にかけて多かった田の字型の間取りであることがわかります。当地でも昭和初期に建てられた住宅の多くが玄関位置は異なりますが田の字の間取りが多く昔の家を思い出される方も多いのではないのでしょうか。

さて下の間取りは「のび太の家」です。こちらは木造2階建て28坪。サザエさん宅同様現代とは違って畳の部屋が多い間取りですが、洋間の応接間があります。サザエさんの家との間取りの違いは、中廊下式の間取りとなっていて、各個室のプライバシーを配慮した間取りとなっていることがわかります。この中廊下式は昭和40年代にかけて流行した間取りです。確かに築30年以上のお宅をリフォームさせていただくことが多く、この中廊下式の間取りのお宅が多いことがわかります。

この中廊下式の後、広いLDK(キッチンとリビングが一部屋)の間取りが出現となります。

昭和でも年代の異なる住まいを見てみると、間取りの移ろいなど分かることも面白いですが、「サザエさんの家」は何よりも今と違って大家族で賑やかだったこともわかりますね！

たまたま業界の資料にサザエさんの家の間取りを見つけ、こりゃ面白そうだと調べてみたら、ドラえもんの住んでいる「のび太君の家」の間取りも見つけたのでご紹介した次第です。実は「ちびまる子ちゃんの家」もありましたが、丁度「サザエさんの家」と「のび太の家」への推移の中間期に当たる平屋で中廊下式の間取りでした。紙面に入りきれないので割愛しましたが、時代とともに移り変わる間取りから当時の生活ぶりまで見えるようです。(啓)

東京研修旅行報告！

1月15日・16日に廿日市店の太田君・大竹店の河野君と私とで東京に研修旅行に行ってきました。今回の研修テーマは”断熱改修”。国も省エネ住宅の普及を進めており、近年リフォーム工事においても、リフォーム工事の際に床・壁・天井に断熱材を施工し、窓などの開口部も内窓の取付や複層ガラスのサッシへの取替など行うことで、断熱性能の高いリフォームが求められています。そこで、リフォーム工事の際に断熱材を施工するのですが、国は地域別に断熱材の種類による厚みは決めているものの、正しい施工方法は実際に施工する職人までは伝わっていません。折角断熱材を入れても、正しく施工されなければ断熱効果が発揮されないため、正しい施工方法とその必要性を習得するために研修に行った次第です。研修は、私が運営にかかわっている住宅改修技能育成協議会と言う業界団体の専用の研修所(春日部)で行いました。ここには原寸大の木造の骨組みが2棟あり、実際に断熱材を施工できるようになっています。



断熱施工研修の様子

左の写真は太田君と河野君が実際に袋入りの断熱材を施工しているところです。ポイントは、袋の上下を破り、上は桁・横は柱や間柱に張り付ける耳の部分固定し、特に間柱では左右がしっかりと重なり合うようにすることで断熱材の室内側の防湿層を機能させることで結露を防ぎます。

また、筋交いが壁の中にある場合は断熱材が筋交いに当たる部分をカッターで切除し、断熱材の厚みを一樣にすることで、断熱欠損(断熱の弱い部分：結露が起りやすい)を防ぐことなど実際に習得しました。



YKKAP品川

翌日は品川にあるサッシメーカーYKKAPの体験型ショールームへ。ここでは、外気が冬の1℃程度にした広い空間の中に5つ断熱仕様の部屋を作り、全く同じ設定での暖房を行い実際に温熱を体感できるようになっています。前日は断熱材でしたが、ここではサッシの違いがどれだけ断熱性能に影響があるかを体感でき、改めて自社の施工における仕様を決める参考になりました。いやー、サッシが違えば全然快適さが違いました！

そして、最後に新宿にあるTOTOテクニカルセンターへ。ここは日々進化するTOTO独自の技術を紹介する施設。お尻を洗うウォシュレットの洗浄水やシャワーの特殊な吐水などが特殊なストロボを当てることで見られるようになっていたり、スイッチを押すその動作だけで発電してリモコンを作動させる技術など、説明を受けるたびに三人で「へー！、ほー！」を連発。日々、TOTOのたくさん技術者がどうしたら新しい商品を開発できるか日夜努力されていることを垣間見ることができました。



TOTOテクニカルセンターにて

さてさて3人の忙しくも楽しい研修旅行。太田君は前入りして大学時代の友人と痛飲して山手線で寝てしまい気が付けば一周していたとか。日々営業や現場で忙しくしていますが、年に一度はこのような研修旅行で最新の施工や技術の刺激を受けるのも必要だと痛感した研修旅行でした。(啓)

